

京都市図書館における居心地の良い空間創出に係る 試行実施委託に関する報告書

Open A / 公共R不動産
— REALPUBLICSTATE —



目次

1章 はじめに

1-1 業務概要

1-2 業務実施内容

2章 図書館における居心地の良い空間の創出と 空間創出効果を高めるイベントの企画・運営

2-1. コンセプトと空間デザインの意図について

2-2. 各館での展開内容

(1) 左京図書館

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

②イベントの実施内容

(2) 中央図書館

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

②イベントの実施内容

③その他の取り組み内容

(3) 右京中央図書館

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

②イベントの実施内容

③その他の取り組み内容

3章 本事業を幅広い市民に周知するための広報

・ 3-1. 広報・周知活動の実績（WEB、チラシ、SNS運用）

・ 3-2. 持続可能な情報発信に向けたツール整備（運用マニュアル・テンプレートの作成）

4章 空間創出効果の検証

4-1. 利用者アンケート実施概要

4-2. 来場者の属性と利用傾向

4-3. 利用者からの空間・滞在に関する評価

4-4. 利用者からの具体的なニーズ

4-5. 職員との振り返りによる利用者の声・運営・管理上の課題

5章 成果と課題の総括

5-1. 成果

5-2. 課題

6章 居心地の良い空間創出に向けた提言

6-1. ハード

6-2. ソフト

6-3. まとめ

資料

- ・ レイアウト図
- ・ &BOOKSアンケート結果概要（左京図書館・中央図書館・右京中央図書館）
- ・ Instagram運用マニュアル

はじめに



1章 はじめに

1-1. 業務概要

(1) 件名 : 京都市図書館における居心地の良い空間創出に係る試行実施業務

(2) 業務の目的 :

今日の図書館機能として単に本を借りるだけに留まらない、誰もが居心地が良いと感じる「サードプレイス」としての機能、新たな繋がりや活躍の機会を創出し、新しい価値や気づきに出会える場所となる「フォースプレイス」の機能が求められている。現在の本市の図書館は、施設の老朽化や面積の狭さなどの課題を抱えている中、大規模改修によらない図書館のサードプレイス化を目指し、例えば子どもも大人も快適に過ごせるソファ一席の導入や、コーヒー片手に読書を楽しめる居心地の良い空間づくりの他、親子が時間を忘れてゆっくり過ごせる絵本に囲まれた空間創出など、新たな図書館利用者の呼びみにつながる居心地の良い空間創出を試行的に実施するとともに、整備効果を検証することで今後の図書館構想策定に向けたエビデンスとすることを目的とする。

(3) 実施期間 : 令和7年10月18日から令和8年2月20日まで

(4) 履行場所 : 左京図書館・中央図書館・右京中央図書館

1-2. 業務実施内容

(1) 事業実施方針

本業務は、単なる短期イベントではなく、図書館の未来像を共有・検討するための「社会実験」としての側面を持っています。POP-UPによって生まれる新しい利用者層との接点、市民の反応、地域との連携のあり方などを記録・分析し、そこから得られる知見をもとに、常設化や他館への水平展開、あるいは図書館外の公共空間・民間施設との連携へと発展させていくことを目指す。

(2) 実施内容

① 運営計画

運営方法及び、日程について、市と打ち合わせを行い、計画書作成した。

② 図書館における居心地の良い空間の創出

- 本業務の目的や市との打ち合わせをもとに企画コンセプトを「〇〇と本」からはじまる新しい図書館の体験POP-UP LIBRARY KYOTO 「&BOOKS」と定めた。
- 従来の「読む」「学習」といった活動に限定されていた図書館の機能を拡張させるきっかけをつくり出す“〇〇と本”をテーマにした仮設型の図書館パッケージを作り、ライフスタイルに関係するさまざま切り口から、普段利用していない層にも興味を持ってもらい、図書館を訪れるきっかけを広げる取り組みを実施した。

1章 はじめに

1-2. 業務実施内容

(2) 実施内容（仕様書との対応について）

②図書館における居心地の良い空間の創出

- POP-UP LIBRARYを実施する3館の視察と図書館司書へのヒアリング、打ち合わせを踏まえ、イメージを作成し、協議を行い、什器の制作及び必要備品の調達を行った。

③その他、空間創出効果を高めるイベントの企画、運営

- 対象となる図書館の特性、地域性などの調査、視察とヒアリングを実施。調査・ヒアリングを踏まえ、下記の通り、各館の企画テーマの設定を行い、空間やイベントの企画運営に落とし込んだ。

■ 企画コンセプト：

「〇〇と本」からはじめる 新しい図書館の体験 POP-UP LIBRARY KYOTO &BOOKS

「& BOOKS」は、従来の「読む」「学習」するといった活動に限定されていた図書館の機能を拡張させるきっかけをつくりだす“〇〇と本”をテーマにした仮設型の図書館パッケージです。ライフスタイルに関係するさまざまな切り口から、普段利用していない層にも興味を持ってもらい、図書館を訪れるきっかけを広げていきます。

■ 期間：

10月18日（土）～11月21日（金）	左京図書館	BREAK&BOOKS	コーヒーと本を楽しむひととき
11月22日（土）～1月16日（金）	中央図書館	FIND&BOOKS	本とくつろぐ、新たな発見につながる
1月17日（土）～2月20日（金）	右京中央図書館	MEET&BOOKS	本と出会う・多世代と交流する

④本事業を幅広い市民に周知するための広報

- 京都市の報道発表やプレスリリースを活用し、露出を増やし、本イベントの認知度を高めた。
- イベントを告知する特設サイトやチラシを作成し、市内の図書館及び関連施設に設置した。
- 本事業のInstagramのアカウントを立ち上げ、POP-UPを実施する図書館のみならず、他の図書館の関連イベントの広報を実施した。Instagramのアカウントの運用マニュアルを作成し、報告書とともに納品した。

⑤空間創出効果の検証

- パネルアンケートやGoogleフォームによるアンケート調査を実施し、市民の声を収集した。
- 図書館司書・現場職員に向けて振り返りのアンケート調査及び振り返りのヒアリングを行った。
- 上記の結果をもとに空間創出効果の検証及び今後の取り組みに向けた提案を行なった。

図書館における居心地の良い空間の創出と 空間創出効果を高めるイベントの企画・運営



2-1. コンセプトと空間デザインの意図について

コンセプト：「〇〇と本」からはじまる、新しい図書館の体験 POP-UP LIBRARY KYOTO &BOOKS

空間デザインの意図：

■ 機能性

スツール、ソファ、ベンチなど複数種類の座席を用意し、これまでの図書館にはなかった多様な居場所を創出した。図書館ならではの書架、イベントで活用できる屋台を用意し、コンセプトの表現に活用した。

■ 可動性

状況に合わせてレイアウトを調整できるように、すべての什器を可動式とした。流動的な会場や目的に適応させるとともに、設置後の予期せぬ配置変更などにも柔軟に対処可能とした。

■ 素材選定

主な素材には、バリが出にくく安全な再生樹脂板を採用した。耐水性が高くメンテナンスも容易で、屋外での利用にも対応する。さらに、館内で静かに、短時間で設営できるよう、接合部には結束バンドを用いた。

■ デザイン性

既存空間に馴染むブラウンをベースにしながら、各館ごとにキーカラーを設定し、組み立てに使う結束バンドの色を変更。また、キーカラーに合わせた絨毯や照明を活用し、一体感のある空間を演出した。



2-2. 各館での展開内容

(1) 左京図書館 テーマ：BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

- 実施期間：令和7年10月18日（土）～11月21日（金）
- ゾーニング・家具の配置の考え方について：

- 子どもの利用が多い特性を踏まえ、黄色をテーマカラーに設定した。
- 小上がりを子ども用の遊び場、その手前を保護者のくつろぎスペースとして空間を分割した。
- 遊び場には曲線ベンチを円状に並べてテーブルに見立て、知育おもちゃを設置した。
- コーヒーワークショップの開催を見据え、保護者スペース沿いに屋台を設けた。
- 同企画に連動し、司書が選書した「コーヒーにまつわる本」と「絵本特集」を可動書架に展示した。



通常時



イベント時

考察

「BREAK&BOOKS」というコンセプトの下、親子連れの利用客が子どもが小上がり部分で遊び、保護者がほど良い距離感でリラックスできるような空間を構成した。曲線ベンチは子どもがおもちゃで遊ぶのに適した形状で、小上がり部分に従来と異なる機能を持たせられた。設置した知育おもちゃが静音で遊び方が感覚的に伝わるものだったため、常に誰かが遊んでいる状況だった。

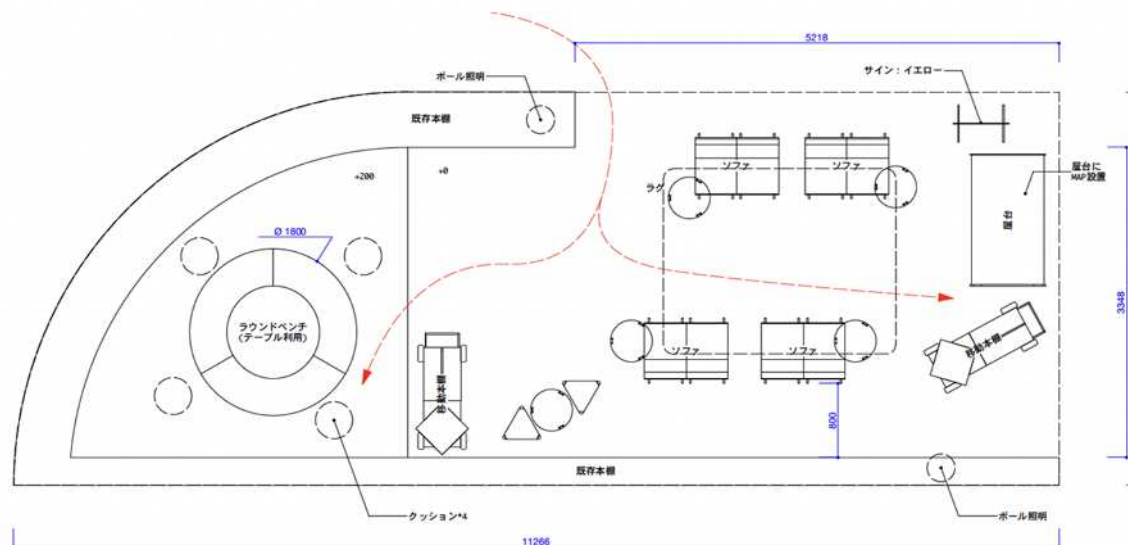
2-2. 各館での展開内容

(1) 左京図書館 テーマ：BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

実施期間：令和7年10月18日（土）～11月21日（金）

- ゾーニング・家具の配置の考え方について：



レイアウト図



2-2. 各館での展開内容

(1) 左京図書館 テーマ：BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき

②イベントの実施内容

- イベント名：BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき
- 日時：令和7年10月18日（土）
- 内容：コーヒーワークショップ / ボードゲームパーティー
 - Pono coffee によるコーヒーワークショップと司書による「コーヒーと一緒に読みたい本」の紹介と読書タイムの提供
 - ・講師：Pono coffee 高木氏
 - ・時間：10:30-12:00 / 14:00-15:30の2回
 - ・参加費：1人500円（事前予約制・各回5組10名）
→事前募集で定員に達し、当日キャンセルもあったが、飛び込み参加者もあり、全部で10組16名が参加
 - ・内容：家で美味しいコーヒーを淹れることができるためのコツを教えるワークショップを実施。
ワークショップ実施以外の時間帯では販売を行い、用意したコーヒーも完売した。参加者から好評だった。
 - 東山いきいき市民活動センター（さわげる図書館プロジェクト）によるボードゲームパーティーの実施
 - ・協力：東山いきいき市民活動センター（さわげる図書館プロジェクト）
 - ・時間：10:30-14:00
 - ・参加費：無料
 - ・内容：コーヒーワークショップの親子参加を見越して、大人がコーヒーの時間を楽しんでいる間に、子どもが楽しめるコンテンツとしてボードゲームパーティーを実施した。また、「静かにしなければならない」という図書館の常識に対し、あえて音の出る交流（ボードゲーム）を取り入れた実験的なアプローチを行なった。



考察

市内のコーヒー事業者や東山エリアの市民活動センターとの連携したイベントを実施した。「BREAK&BOOKS」というコンセプトのもと、図書館を従来の「本の貸し出しの場所」から利用者がリラックスできる「サードプレイス」としての機能を実装するとともにボードゲームやワークショップなど交流型のコンテンツを通じて多世代交流を誘発する「フォースプレイス」的な役割を試験的に導入した。これにより、本市が新たな施策に挑戦しているという期待感の醸成につなげることができた。

2-2. 各館での展開内容

(1) 左京図書館 テーマ：BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき

● 当日の写真



2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS 本とくつろぐ、新たな発見につながる

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

- 実施期間：令和7年11月22日（土）～令和8年1月16日（金）
- ゾーニング・家具の配置の考え方について：

- 「本を探すジャングル」をイメージし、緑色をテーマカラーに設定した。
- 探索するような感覚を創出するために空間内に植物を設置した。
- 奥行きのある空間だったため、曲線ベンチを波状に並べることで、利用者を奥へと誘導する導線を形成した。
- 視認性の高い手前側に屋台を置き、周辺マップを掲示した。
- キッチンカーの出店に合わせ、司書が選書した「食に関する本」を可動書架で紹介した。



考察

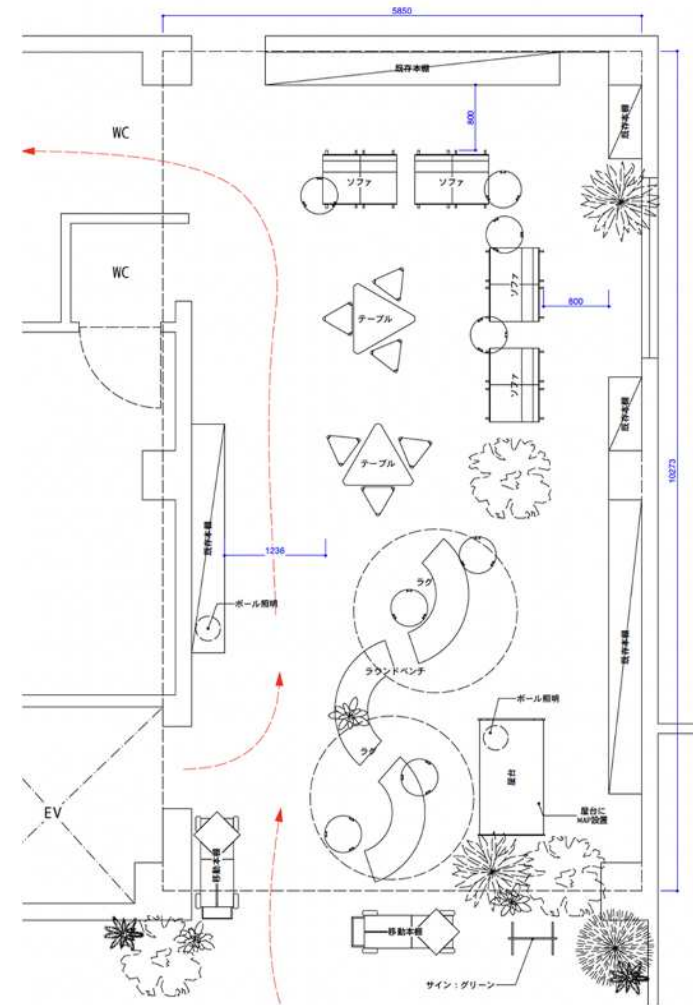
「FIND&BOOKS」というコンセプトの下、探索して本と出会えるような空間を構成した。あえて視線が通らないように植栽を設置したが、癒しの効果と利用客の居場所が近くてもプライバシーを保障する機能があった。一部管理業務が発生したが、メリットの方が十分に大きかった。座席は高齢利用者が多い中でより安定性のあるものにすべきだった。

2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS 本とくつろぐ、新たな発見につながる

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

- 実施期間：令和7年11月22日（土）～令和8年1月16日（金）
- ゾーニング・家具の配置の考え方について：



レイアウト図

2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

②イベントの実施内容

- イベント名：FIND&BOOKS 本とくつろぐ、新たな発見につながる
- 日時：令和7年11月22日（土）11:00-16:00
- 内容：図書館の屋外空間を活用したイベントの実施（キッチンカー・ベビーカステラ出店／本の交換会／中央図書館周辺オリジナルMAPづくり／電子書籍ガチャガチャの設置）

■ キッチンカー・ベビーカステラ出店

- ・ 出店事業者：mucho coffee（コーヒー）、ねおん食堂（ブリトー・スムージー）、京都すずなりや（ベビーカステラ）

■ むこうスタイルLABOによる本の交換会

- ・ 『言葉でつながる物々交換の本棚』を実施。タイトルを隠し、メッセージのみを添えて本を交換する手法により、読書を通じた新たなコミュニケーションを促進。

■ 中央図書館オリジナルMAPづくり

- ・ 司書おすすめの近隣スポットと、来場者による「おすすめ情報」を融合させた参加型マップ制作を実施。

■ 電子書籍ガチャガチャの設置

- ・ 図書カードの登録により電子書籍が利用可能になる点など図書館の機能の周知のため、大人から子どもまで幅広い層を対象にした司書手作りのガチャガチャを設置。ガチャガチャを通じた司書とのコミュニケーションがきっかけとなり、図書カードの新規作成者の増加にも繋がった。



考察

屋外のピロティを活用し、足を止める仕掛け（市内事業者と連携したキッチンカーなどの出店・物々交換本棚）を配置することで、普段図書館を利用しない層や地域住民の立ち寄りきっかけとなった。「開かれた場としての図書館の変化」を可視化することに寄与した。また、周辺のオススメマップを作成することで、図書館を起点に周辺エリアへ人を送り出す導線をつくり、施設単体での完結ではなく、「図書館と周辺地域のつながり」を創出した。

2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

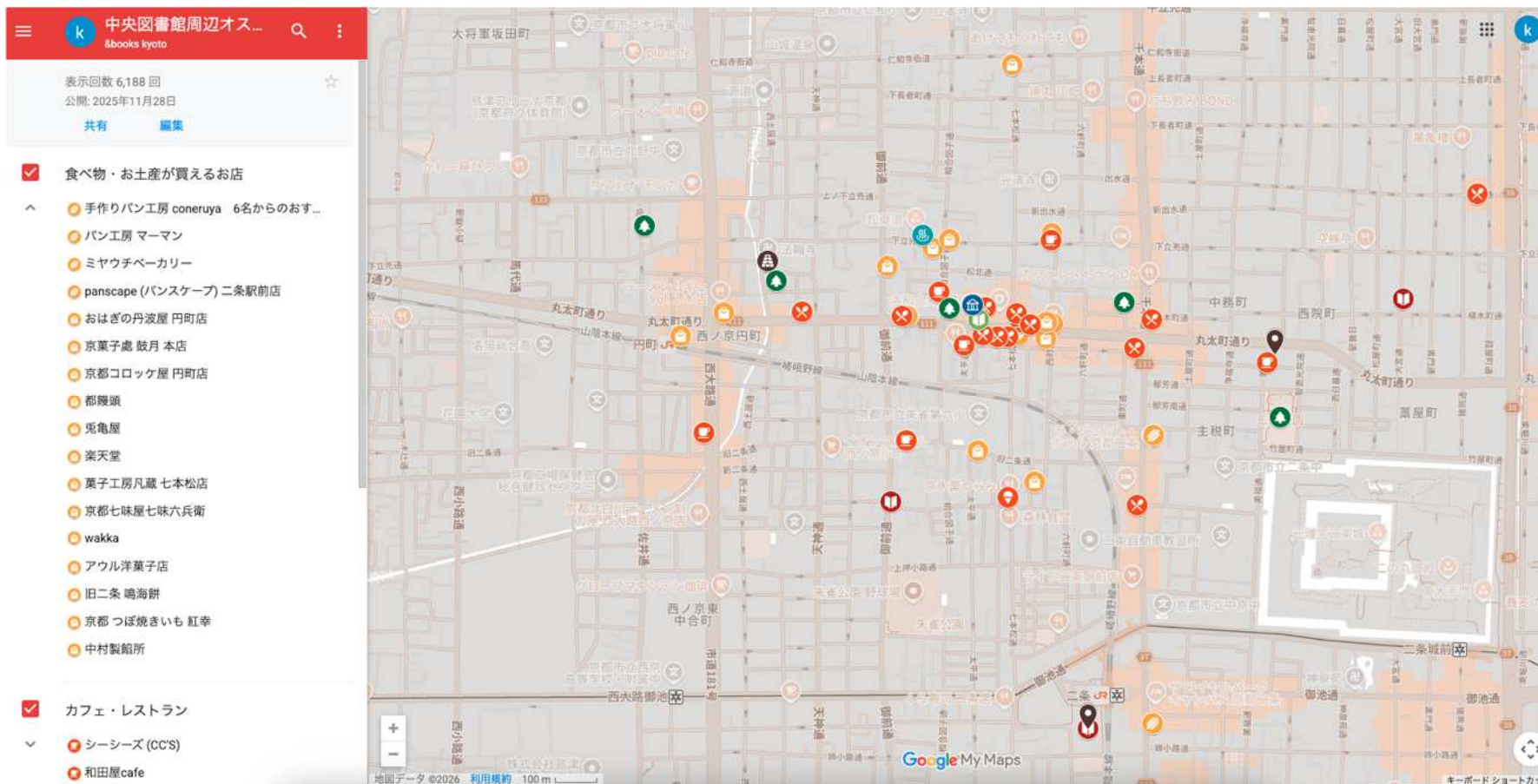
- 当日の写真 終始賑わっていた



2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

● 中央図書館周辺オススメMAP



←中央図書館周辺オススメMAPのスポットの紹介コメント。一つ一つのスポットに対して様々な紹介コメントが寄せられている。



マップに貼られた利用者のおすすめスポットの付箋→

2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

- キッチンカー出店者の声

Q.図書館でのイベント出店の可能性を感じましたか？

- 図書館が本を読む人にとってのインフラであることを改めて実感したこと、集まる方の人柄や好奇心を隠さない小学生など、とても健やかな場所と時間と感じました。また、図書館の職員さんや市の職員のみなさんの、図書館をなんとか変えたいという思いやきっかけを求めているように感じたためです。
- 親子、老若男女問わず集まる場所として、図書館の利用を分岐点に多様な体験の場はとても魅力的と感じ、お客様からも是非継続してほしいと声がありました。飲食があるのが良かったと思います。

Q.本イベントの売り上げ・販売数・客層を教えてください。

- mucho coffee：コーヒーの販売 コーヒー 40杯／20代～70代の幅広い利用者
- ねおん食堂：ブリードリンク フード20 ドリンク40杯程度／30-40代ファミリー 職場の方、図書館利用の方

Q.今後出店する上でどのようなサポートがあると出店しやすいか。

- 手続きの簡略化。主催者側で食い止めて、出店者はなるべく少ない手続きで出店できると出店者が集まりやすいと思いました。今回は少なくても助かりました。

Q.どのような設備があると出店しやすいですか？

- 電源、水道、トイレ、軒下空間等の雨のかからない場所、ベンチ、テーブルなどの飲食できる場所。オンライン申請、イベントカレンダーの公開など。
- 電気コンセントがあると非常に嬉しいです。また、集客のサポートがあると出店しやすいです。

Q.図書館で出店するメリットはどのようなかがあると思いますか？

- 観光客は1回きりが多いが、図書館の利用者は継続的に利用してもらえる可能性があることがメリット。単純な売上だけを目指すのではなく、地域やコミュニティへのなんらかの価値提供を考えている人向けの出店場所と感じた。
- 多様な方との交流ができるので新しいご縁も増えて、図書館でされてる企画の内容など知ることもでき、イベント開催時にもっとコラボしても面白いのかなと思いました。

2-2. 各館での展開内容

(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

- キッチンカーなどの継続的な出店に向けて

考察

- 売り上げについて：
今回の売り上げは、事業者にとって「継続検討の余地がある」売上であった。
- 事業者が感じた出店する価値について：
出店者が感じた「健やかな場所」や「利用者の人柄の良さ」「親子、老若男女問わず集まる場」というポジティブな印象は重要である。図書館での出店は、事業者にとって「地域貢献」や「ブランドイメージの向上」という、金銭以外の動機付けになりえるといえる。

今後の継続に向けては、下記のようなハード、ソフトの仕組みが必要であると言える。

① 行政手続きの「ワンストップ化」

事業者は「手続きの簡略化」を強く求めています。市側がワンストップ窓口となり、出店者の事務負担を最小限に抑える仕組みが、事業者を呼び込む鍵となる。

② 事業者が求めるハードと「滞在したくなる場」の設置

出店のハードルを下げるには、「電源」「水道」などのインフラや、「雨よけ」などの天候に関わらず出店できるハードが重要な要素となる。また、ベンチやテーブルを設置することで、利用者が「買って帰る」のではなく、「その場で滞在し、店主やその場に居合わせた人と交流する」という要素が加わり、図書館のサードプレイス化を促進する。

③ 図書館のサードプレイス化に共感を呼ぶ出店者への呼びかけ

「観光地のような一見客ではなく、リピーター（常連）が付く可能性がある」という指摘は、図書館出店ならではの強みと言える。売上至上主義ではなく、「地域コミュニティへの価値提供」に共感する事業者への呼びかけや広報が必要であると言える。

今回の取り組みは、図書館が「地域経済と交流を促すプラットフォーム」になり得る可能性を示した。利用者からも図書館での飲食の提供の要望があることを踏まえ、単発のイベントで終わらせず、「日常的な風景」として定着させるため、「図書館イベントにおけるキッチンカー等の出店ガイドライン」の策定や、手続きのワンストップ化に向けた関係各所の調整などが求められる。

2-2. 各館での展開内容

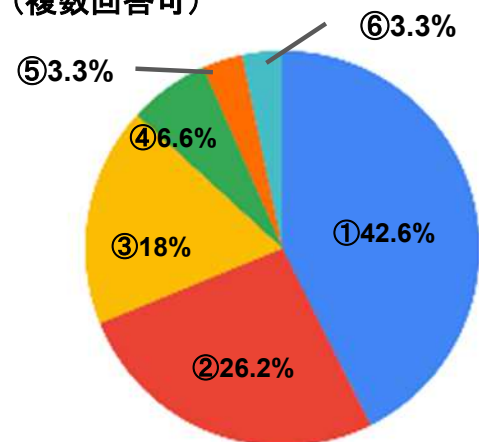
(2) 中央図書館 テーマ：FIND&BOOKS -本とくつろぐ、新たな発見につながる-

③関連した取り組みの開催

- 取り組み名：中高生限定自習空間「Library Study Space（リブスタ）」
- 日時：令和7年11月26日（水）～12月8日（月）平日夜間（火曜日(休館日)を除く）17:15-20:00
- 内容：通常は制限されている資料の持ち込みによる自習での利用を可能とした。
- 利用状況：34人（中学生15人、高校生19人）
- 実施の写真



どんな自習空間が望ましいですか。
(複数回答可)



① 一人で静かに集中できる空間	42.6%
② 友達と勉強を教え合える空間	26.2%
③ 飲食ができる空間	18.0%
④ 多世代が混在する空間	6.6%
⑤ 勉強おしゃべり混在する空間	3.3%
⑥ その他	3.3%

【アンケートの集計結果概要】

- 利用者は中京区・上京区在住者が85.3%で、ほとんどが近隣にお住まいの方であった。
- 自習室を知ったきっかけは、学校のポスターで知った（31%）が最も多く、周知方法として効果があった。また、親（23.8%）や友人（21.4%）からの口伝により聞いて知った方も多かった。
- 利用者の満足度は10点満点中平均で8.9点。また利用したいかについては10点満点中平均で9点と非常に高い評価であった。どのような自習室が望ましいかについては、一人で静かに集中できる空間が42.6%、友達と勉強を教え合える空間が26.2%と意見が分かれた。

【利用者からの声】

- 学校の自習室は19時までしか開いていないので、家の近くで20時まで開いている場所はすごくありがたいです。
- 無料で学習をできる場所がないので、今後も開放していただけたらうれしいです。
- 期間限定と言わず、これからも続けて下さると嬉しいです。友達も連れてきます。
- テスト前だったのでとてもありがたく活用させていただきました。
- 自習室を市立図書館に常設してほしいです。
- Wi-Fiを接続できるようにしてほしいです。
- 私語が多かった。

考察

利用者の高い満足度と常設化を望む声から、全体のアンケートでもニーズ大きかった「自習室」を設置することで、図書館が中高生にとって「居場所」として機能することがわかった。学校の自習室が閉まった後に家の近くで自習できる場所があるといいというニーズも確認された。「個人で集中できる空間」が欲しいという声と「友達と教え合えるグループ学習」のニーズが混在しており、ゾーニングが必要であることや、Wi-Fi等インフラ環境の整備が、必要不可欠である。

2-2. 各館での展開内容

(3) 右京中央図書館 テーマ：MEET&BOOKS - 本と出会う・多世代と交流する -

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

- 実施期間：令和8年1月17日（土）～令和8年2月20日（金）
- ゾーニング・家具の配置の考え方について：

- 活発なコミュニケーションを喚起するため、赤色をテーマカラーに設定した。
- 利用者同士の自然な会話が生まれるよう、曲線ベンチを円状にレイアウトした。
- 読書室への入室を促す導線づくりのため、入り口から視認できる奥の壁沿いにコーヒー販売用の屋台を設けた。
- ワークショップで制作されたZINEに加え、司書が選書した「本を介したつながり」に関する書籍を可動書架に展示し、コンセプトを体現した。



通常時



イベント時

考察

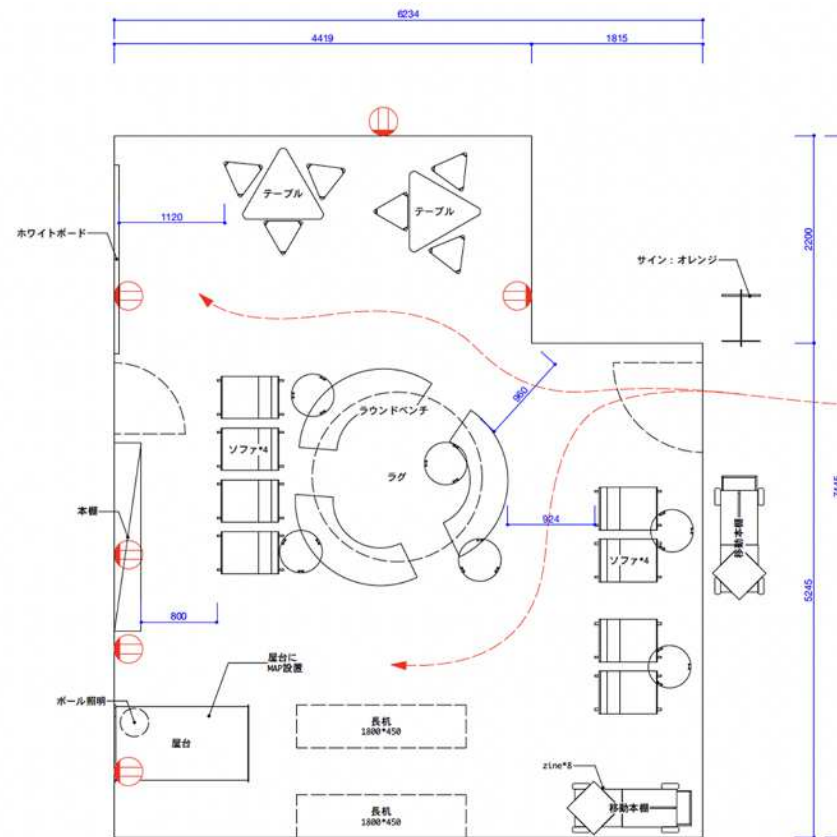
「MEET&BOOKS」というコンセプトの下、本を通じて交流が起こるような空間を構成した。従来は新聞閲覧の利用者がほとんどだったが、複数種類の座席を用意したことで期間中は多様な利用者が見られた。屋台を利用誘引のための配置としたが、コーヒーを買わないと中に入りづらいという声があった。

2-2. 各館での展開内容

(3) 右京中央図書館 テーマ：MEET&BOOKS - 本と出会う・多世代と交流する -

①ゾーニング・家具の配置の考え方について

- 実施期間：令和8年1月17日（土）～令和8年2月20日（金）
- ゾーニング・家具の配置の考え方について：



レイアウト図

2-2. 各館での展開内容

(3) 右京中央図書館 テーマ：MEET&BOOKS - 本と出会う・多世代と交流する -

② イベントの実施内容

- イベント名：MEET&BOOKS ZINEづくりワークショップ
- 日時：令和8年1月17日（土）13:00-17:00
- 内容：自己紹介をテーマにしたZINEづくりのワークショップの実施／ZINEの作り方の冊子の配布

■ ZINEづくりのワークショップの実施

- ・ 自己紹介をテーマに自分の「好き」を形にするZINE（小冊子）のワークショップを実施。12月1日の募集開始から1日程度で定員（8名）に達したため、急遽10名に拡充し、その後はキャンセル待ちを受け付けた。
- ・ 当日にキャンセルが発生し、20代から60代の幅広い層9名が参加。「自己紹介」という自身の内面を表現し、完成したZINEを発表しあうことで本を通じた自己紹介が行われ、世代を超えたコミュニケーション（多世代交流）が生まれた。



考察

「20代の利用層が少ない」という事前課題に対し、自己表現を軸としたZINEワークショップを展開。狙い通り20代の誘致に成功しただけでなく、20代から60代という幅広い層が参加し、世代を超えた交流を実現した。本取り組みは図書館が単なる「静かに本を読む場所」から、市民が主体的に表現し、新しい価値や気づきに出会える場所となる「フォースプレイス」へと機能を拡張できる可能性を示唆した。キャンセル待ちが生じていることから単発のイベントで終わらせず、新たな利用者層を図書館に呼び込みコミュニティ形成を図るきっかけとして、継続的に取り組むことが望ましい。

2-2. 各館での展開内容

(3) 右京中央図書館 テーマ：MEET&BOOKS - 本と出会う・多世代と交流する -

③関連した取り組みの開催

- 取り組み名：図書館カフェ
- 日時：1月17日、21日、22日、28日、29日、2月1日、4日、5日、12日、18日
- 内容：「気ままおやじ会右京」の協力による図書館内でのコーヒー販売。図書館に地域の憩いの場としての機能を付加した。
- 実施の写真



- 取り組み名：～本とつながる、人とつながる～「みんなの本棚」／ゆるコミボード
- 日時：令和8年1月17日（土）～2月20日（金）
- 内容：市民が図書館の中に自分だけの本棚を持つことができる「みんなの本棚」を設置。市民が単なる「利用者」に留まらず表現者として図書館に関わる機会を提供した。また、本を媒介としたコミュニケーションを促進する「ゆるコミボード」を設置。おすすめの本の紹介や本の感想を通じ、市民の主体的な関わりを創出した。
- 実施の写真



本事業を幅広い市民に周知するための広報



3章 本事業を幅広い市民に周知するための広報

3-1. 広報・周知活動

(1) 特設サイト：特設WEBサイトを制作し、取り組みの概要・イベント情報等の発信を実施した。

URL : <https://andbookskyoto.studio.site/>

The screenshot shows the website for 'andbookskyoto.studio.site'. It features a 3D rendering of the library interior with various seating areas and bookshelves. The website includes a navigation menu with 'andBOOKSについて', 'POP-UP LIBRARY/EVENT', and 'お問い合わせ'. Below the rendering, there are event schedules for 2025 and 2026. The 2025 schedule includes '11.22-11.16 中央図書館' and '10.18-11.21 左京図書館'. The 2026 schedule includes '1.17-2.20 右京中央図書館'. A section titled 'POP-UP LIBRARY KYOTO & BOOKS' provides details about the project, including its purpose and contact information.

1/17(sat)-2/20(Fri) MEET&BOOKS @右京中央図書館



MEET&BOOKS 本と出会う、多世代と交流する

POP-UP LIBRARY実施期間：2026/1/17(Sat)-2026/2/20(Fri)

本と人、人と人がつながるラウンジエリア

新しい出会いを体験する。真ん中の円形ベンチ、壁際にはゆっくりと過ごせるソファエリアを設けました。本をアクセントカラーに使い、アクティブな雰囲気を出しています。

POP-UP期間中は、ZINEのワークショップの参加者が作成したZINEの「新たな出会い」をテーマにしたポスターも展示いたします。



ZINEづくりワークショップ：2026/1/17 (Sat) 13:00-17:00

あなたの「好き」を詰め込んだ、オリジナルのZINE（小冊子）を作成ワークショップを開催します。完成したZINEは、参加者同士で交換したり、POP-UP空間中に自由に読めるように展示したり、ZINEを通して、まだ知らない誰かとつながったり、新しい発見があったり、あなたの「好き」から始まる、新たな出会いを楽しみましょう。

- テーマ：自己紹介 自分の好きなもの・好きなこと・集めているものなどを紹介してください！今回のワークショップはZINEをつくること自体が目的というわけではなく、ZINEづくりを通じて自分好きなこと・得意があることも人に共有することを目的としています。作ったZINEを通して新たな自分や新たな人との出会いが生まれますように。
- 当日の流れ
 - ・ZINEの作り方の紹介
 - ・制作と印刷！ 時間内に自分のテーマに合わせて図鑑で調べ物をもてOKです！できた方から印刷＆仕上げを行います。制作と印刷の時間は2時間半程度を想定しています。
 - ・作ったZINEの紹介をしましょう！
- 持ち物
 - ・写真を入りたい場合は写真をコピー用紙などに印刷してお持ちください。
 - ※ZINEの完成のサイズは、A3の紙を8等分にしたサイズですので、そのサイズに合わせて印刷してください。
 - ※ペン、紙、ハサミなどの文房具はこちらでご用意します
 - ※ZINEは自費印刷です
- 注意事項
 - ・当日スムーズにZINEづくりができるよう、テーマをあらかじめ決めておいてください。
 - ・ZINEは自費です。こちらでご用意したA3の紙の色を選んでいただく印刷となります。
 - ・ZINEは、コピーして10部制作し、参加者同士で交換・1部持ち帰り・1部は右京中央図書館のPOP-UP期間中、本棚に展示する予定です。
 - ・終了後（2/20 17:00以降もしくは2/28以降）、右京中央図書館に預りに来てください。2/21（土）～27（金）は、右京中央図書館の読書会場で体験いたします。
 - ・申し込み多数の場合は、先着順とさせていただきます。参加受付のメールをもって申し込み完了となります。

- 持ち物
 - ・写真を入りたい場合は写真をコピー用紙などに印刷してお持ちください。
 - ※ZINEの完成のサイズは、A3の紙を8等分にしたサイズですので、そのサイズに合わせて印刷してください。
 - ※ペン、紙、ハサミなどの文房具はこちらでご用意します
 - ※ZINEは自費印刷です
- 注意事項
 - ・当日スムーズにZINEづくりができるよう、テーマをあらかじめ決めておいてください。
 - ・ZINEは自費です。こちらでご用意したA3の紙の色を選んでいただく印刷となります。
 - ・ZINEは、コピーして10部制作し、参加者同士で交換・1部持ち帰り・1部は右京中央図書館のPOP-UP期間中、本棚に展示する予定です。
 - ・終了後（2/20 17:00以降もしくは2/28以降）、右京中央図書館に預りに来てください。2/21（土）～27（金）は、右京中央図書館の読書会場で体験いたします。
 - ・申し込み多数の場合は、先着順とさせていただきます。参加受付のメールをもって申し込み完了となります。
- ・料金：無料 / 定員：8名（先着順）
- ・申し込み：12/1より申し込みを開始します
- ※定員になり次第申し込み締め切りです
- ・住所：京都府京都市右京区伏見 下別府町 12

ワークショップのお申込みは12月1日から

- ※お申し込み多数のための現在キャンセル待ちの受付を行っております。
- ・タイトル：ZINEワークショップキャンセル待ち
- ・本文：お名前・ご連絡先
- ※特記の上、下記にご連絡ください。
- kyotoandbooks@gmail.com



ZINEづくりの冊子の配布：2026/1/17 (Sat) 16:00-16:00

ZINEづくりのワークショップで使用した冊子の配布を行います。

- ・料金：無料 / 定員：30名（先着順）



京ままやじ会右京区による図書館カフェ開催！

1/17 (sat) 10:00-12:00/13:30-15:30
 1/21 (web) 22 (thu) 28 (web) 29 (thu) 13:00-15:00
 2/1 (sun) 10:00-12:00/13:30-15:30
 2/6 (thu) 5 (thu) 12 (thu) 18 (web) 13:00-15:00

コーヒーは1杯200円で販売します。

本と一緒にコーヒーをお楽しみください！

The screenshot shows a calendar for January and February 2026. The calendar highlights the dates for the 'andbookskyoto.studio.site' events. A red box at the bottom of the calendar says '京ままやじ会右京区 WEBサイト'. Below the calendar, there is a section titled '京ままやじ会右京区「人となりが読書」の参加者募集' with details about the recruitment process and contact information.

3章 本事業を幅広い市民に周知するための広報

3-1. 広報・周知活動

(2) チラシの作成・配布：図書館・児童館などの施設にチラシを配布した。

<配布先及び配布数>

9,500部（当初6,500部印刷し、3,000部追加した）

&BOOKS
アンドブックス

いつもの図書館が特別な場所に
POP-UP LIBRARY 実施期間

2025.10.18 Sat. - 11.21 Fri.
左京図書館
京都府京都市左京区野田町1番地
市民福祉センター2階

2025.11.22 Sat. - 1.16 Fri.
中央図書館
京都府京都市下京区
大倉下1丁目町西

2026.1.17 Sat. - 2.20 Fri.
右京中央図書館
京都府京都市右京区京田辺1丁目9-2

新しい図書館の体験
POP-UP LIBRARY KYOTO

「&BOOKS」からはじまるPOP-UP LIBRARY

開催期間：2025.10.18 Sat.～2026.2.20 Fri.
お問い合わせ：075-751-1111
予約受付：075-751-1111

-event-

- 10.18 BREAK & BOOKS**
コーヒーと本を楽しむひととき
場所/左京図書館
- 11.22 FIND & BOOKS**
本とつるぐ、新たな発見につながる
場所/中央図書館
- 1.17 MEET & BOOKS**
本と出会う、多世代と交流する
場所/右京中央図書館

左京図書館・中央図書館・右京中央図書館の各館では、期間限定で図書館内に出現する「いつもの図書館とは異なるPOP-UPスペース」にて読書・滞在をお楽しみいただけます。

&BOOKS POP-UP LIBRARY KYOTO 開催期間中 各館ではワークショップ・イベントを開催します!

図書館自身の読書時間については各図書館のWebサイトをご確認ください。イベントの詳細は、&BOOKSのWebサイトやInstagramで随時更新していきますので、ぜひInstagramのアカウントのフォローをお願いします!

BREAK&BOOKS コーヒーと本を楽しむひととき

図書館がいつものコーヒーと本を結び、イベント参加者に、参加者は、ワークショップ、POP-UP空間の中で、コーヒーと一緒に読書を楽しむことができます。お手帳内付のボードゲームパーティーを同時開催しますので、ご家族でご参加いただけます。POP-UP LIBRARY 実施期間中は、BREAK&BOOKSをテーマに選定した本を空間内の本棚に陳列し、お楽しみいただけます。

2025.10.18 Sat
10:30-12:00 / 14:00-15:30
左京図書館
京都府京都市左京区野田町1番地
市民福祉センター2階
ボードゲームパーティは14:30までになります

料 1人500円 | 本館5館10名まで | Webサイトよりお申し込みください | 申込員にのみお申し込みをお願いします

FIND&BOOKS 本とつるぐ、新たな発見につながる

イベント時には、中央図書館のビロアに1日限定的POP-UP空間が出現。POP-UP空間の中で新たな本に出会い、新たな発見をし、ワークショップで読書しながら本を楽しむ、つるぐ1日を体験します。イベント当日は、図書館やイベント参加者と一緒に中央図書館のオアシスの場所をまわると定規MAPを作成する予定ですが、あなたのオアシスの場所をお知らせください! ※参加費の半額も同時開催します。詳細はWebサイトをご確認ください。

2025.11.22 Sat
11:00~16:00
中央図書館
京都府京都市下京区大倉下1丁目9-2

MEET&BOOKS 本と出会う、多世代と交流する

本図書館があるヤサカなまち4Fに1日限定的POP-UP空間が出現。POP-UP空間の中では、お茶の好きなこと・場所があることを自由に表現するZINEを制作するワークショップを開催します。自作のZINEを制作した後は、参加者同士で交流しながらお茶を飲みながら楽しんでください!

2026.1.17 Sat 未定
13:00~17:00
右京中央図書館
京都府京都市右京区京田辺1丁目9-2
予約受付:12

※お申し込みの受付は、12/1から開始します | ※お申し込みは10名までになります

&BOOKS は、京都市内の図書館における居心地の良い空間創出に向けた実験的なイベントです。

「&BOOKS」は、そんな新しい図書館の可能性を広げるプロジェクトです。従来の「読む」「学ぶ」といった活動にとどまらず、「〇〇と本」をテーマにしたイベントを実施。読書者をつなぐだけでなく、新たな出会いを生み出します。「&BOOKS」が読書者、読書の楽しみをさらに広げていきます。

読書者が持つ従来の「読む」「学ぶ」といった活動の範囲を拡張させるきっかけづくりです。「〇〇と本」をテーマにしたイベントを実施。ワークショップの場にはアンケートを行いますので、ぜひ皆さんの声を大切にしてください。

京都市
City of Kyoto

3章 本事業を幅広い市民に周知するための広報

3-1. 広報・周知活動

(3) 公共空間活用に関する情報を発信するWEBメディア「公共R不動産」の開催告知記事の掲載及び、音声メディアPodcast「公共R不動産の頭の中」での紹介を行った。

▽WEBメディア「公共R不動産」告知記事 URL : <https://www.realpublicestate.jp/post/popuplibrarykyoto/>



京都市「POP UP LIBRARY&BOOK」プロジェクト
「〇〇と本」からはじまる新しい図書館の体験「POP-UP LIBRARY KYOTO」とは？



京都市内の図書館は、政令市の中でも施設規模が小さく、利用者の施設化や学習スペースの不足といった課題を抱えています。

&BOOKSでは、2025年11月から2026年3月にかけて、京都市内の3つの図書館（左京図書館・中央図書館・五市中央図書館）を舞台に、体験型プログラムを持ったPOP-UP LIBRARYが展開していきます。

本プロジェクトは京都市における「駅前戦略」の「デザイン・プロジェクト」「パブリック・イノベーション・プロジェクト」の一環として、図書館を「駅心地のよい第三の居場所（サードプレイス）」として「新たなつながりや活躍の機会を創出し、活気や気づきに出会える場所（フォースプレイス）」へと進化させることを目的としています。



POP-UP LIBRARY 開催：11月18日（土）～11月20日（日）
新たな出会いを創るためのイベントを中央に据え、利用者にはソファエリアを設け、ホビーコーナーに備えるほか、読書やボードゲームを楽しむ空間を創出します。



POP-UP LIBRARY 開催：1月17日（土）～2月20日（日）
新たな出会いを創るためのイベントを中央に据え、利用者にはソファエリアを設け、ホビーコーナーに、ボードゲームや読書を楽しむ空間を創出します。

開催イベント：
-ZINEづくりワークショップ



2026年1月17日（土）13:00～17:00
あなたの「好き」を世界を踏み込んだ、オリジナルのZINE（小冊子）を作るワークショップを開催します。

・料金：無料 / 定員：8名（先着順）
・申し込み：[開催サイトより](#)（12/7より申し込み開始）
・図書館カフェの開設 目標調整中
「読まよおじ安否表」の協力により、ハンドドリップの本格コーヒーを館内で提供。
・コミュニケーションタイプライター 目標調整中
駅の伝言板の形のようにホワイトボードを設置し、おススメ本紹介や近況の書き込みなど、利用者が自由に交流できる空間を創出。

▽Podcast「公共R不動産の頭の中」での告知
#88本を読まなくても居ていい図書館とは？京都市図書館「POP-UP LIBRARY KY...」
京都市図書館/POP-UP LIBRARY KYOTO/既存の図書館に機能を加えて過ごし方を変えてみよう/新京都戦略/「全ての人の居...」
2025年12月15日・34分・再生済み
[Podcast player controls]



3章 本事業を幅広い市民に周知するための広報

3-1. 広報・周知活動

(4) Instagramのアカウントの立ち上げ・情報発信

- アカウント情報：@andbookskyoto / フォロワー数：246（2026年3月18日時点）
- 若年層や普段図書館を利用しない層をターゲットに、&BOOKSのイベントのみならず市内の図書館の情報を、行政的なお知らせではなく、図書館の取り組みやイベントの楽しさなどが伝わるビジュアルを重視した投稿を行った。特に各図書館の情報発信において写真や画像のテイストがバラバラなため、デザインテンプレートを作成し、統一感を持たせた。



▽過去90日間でビュー数が多かった投稿は下記の通り
 ※実際のイベントの写真などのビュー数が高い傾向にあった



・3-2. 持続可能な情報発信に向けたInstagramのアカウント運用の課題と定着に向けた提言

- **Instagramを通じた集客について**
利用者アンケートの結果によると、「何を見て来場したか」という質問に対し、左京図書館では、SNS経由は5件にとどまり、チラシやその他が優勢であった。左京図書館の後にPOP-UPを実施した中央図書館のアンケートでは、SNSは14件あり、チラシ13件と同等となった。右京中央図書館では、その他（市の広報など）、図書館での案内が多かった。フォロワー獲得や認知拡大には時間を要するため、継続的な運用が鍵となる。図書館のスタッフからは、実際に運用している図書館もあるが、「現地スタッフだけで運用することは負担が大きい」という声が多く、本部で一括運用を望む声が多かった。

- **現場スタッフとの振り返りから見えた課題**

アンケートと振り返りでは、

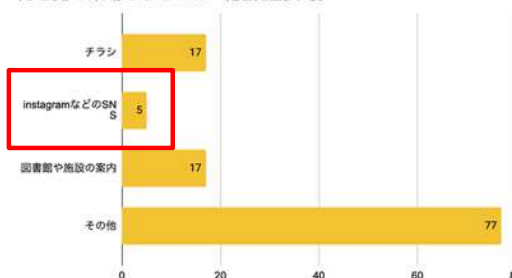
- ・ **スキル・知識不足**：「どのような写真・文章が適切かわからない」「ノウハウがないので一から研修してほしい」という声が多数（中央・左京・右京中央共通）。
- ・ **時間・人手不足**：投稿作成にかかる負担が大きい。
- ・ **リスク管理への不安**：「炎上が怖い」「公的機関として個性をどこまで出していいか迷う」「発信内容の選定が難しい」などの意見があり、運用の仕方として「本部で一括運用してほしい」という要望があった。

- **今後の運用に向けた提言**

- ・ **運用マニュアルの策定**：操作手順だけでなく、誰でも無料で利用できるcanvaというツールを活用し「型」作成することで一定のクオリティを保ち、かつ作成時間を短縮する仕組みを提案した。
- ・ **運営体制の構築**：各館の負担を減らすため、「素材（写真）は現場が用意し、投稿・管理は本部（または専任担当）が行う」といった分業体制や、一括管理の検討が必要。

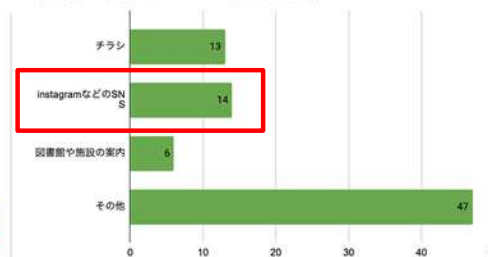
左京図書館

何を見て来場しましたか（複数選択可）



中央図書館

何を見て来場しましたか（複数選択可）



右京中央図書館

何を見て来場しましたか（複数選択可）



canvaで作成したテンプレート

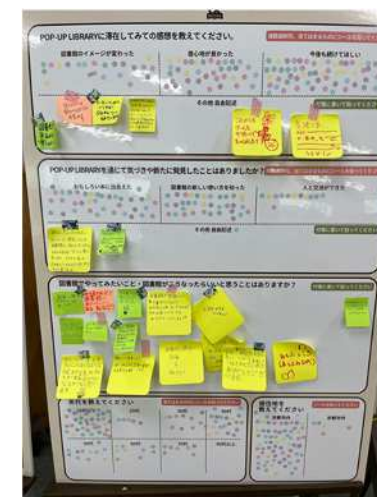
空間創出効果の検証



4章 空間創出効果の検証

4-1. 利用者アンケート実施概要 ※アンケート結果の詳細は、各館の「&BOOKSアンケート結果概要」を参照

- 検証項目と方法：下記を検証するために、パネル及びQRコード読み取りによる来場者アンケートを実施した。
 - ・空間の居心地の良さ：来場者が空間をどのように感じたか。
今後の図書館構想策定に向けて、どのような場があるといいか。
 - ・利用動機の変化：イベントを通じて、普段図書館を利用しない人が訪れたか。
普段利用している人がさらに足を運びたいと思うか。
 - ・新たな価値の創出：来場者が、イベントを通じて新しい本や情報、人との出会いなど、発見や気づきを得られたか。
- 設問
 - ①年代
 - ②居住地（京都市内 or 京都市外）
 - ③何をみて来場しましたか？（選択式）
選択肢：チラシ／instagram／メディア／その他
 - ④何を目的に来場しましたか？（選択式）
選択肢：イベント／空間での滞在／図書館に来たついでに寄った／その他
 - ⑤図書館の通常の利用頻度を教えてください（選択式）
選択肢：週1以上／2週間に1回程度／1ヶ月に1回程度／3ヶ月に1回程度／1年ぶり
 - ⑥こういった空間が図書館にあったら今後も足を運びたいですか？（選択式）
選択肢：ぜひ利用したい／変わらない／あまり利用したくない／その他（自由記述）
 - ⑦POP-UP LIBRARY に滞在してみたの感想（選択式）
選択肢：図書館のイメージが変わった／居心地が良かった／今後も続けてほしい／その他（自由記述）
 - ⑧POP-UP LIBRARY を通じて、新しく知ったことや気づいたことはありましたか？（選択式）
選択肢：面白い本に出会えた／図書館の新しい使い方を知った／人と交流ができた／その他（自由記述）
 - ⑨図書館でやってみたいこと・図書館がこうなったらいいと思うことはありますか？
自由記述



4章 空間創出効果の検証

4-2. 来場者の属性と利用傾向

(1) 幅広い世代への広がり、地域性が現れた客層

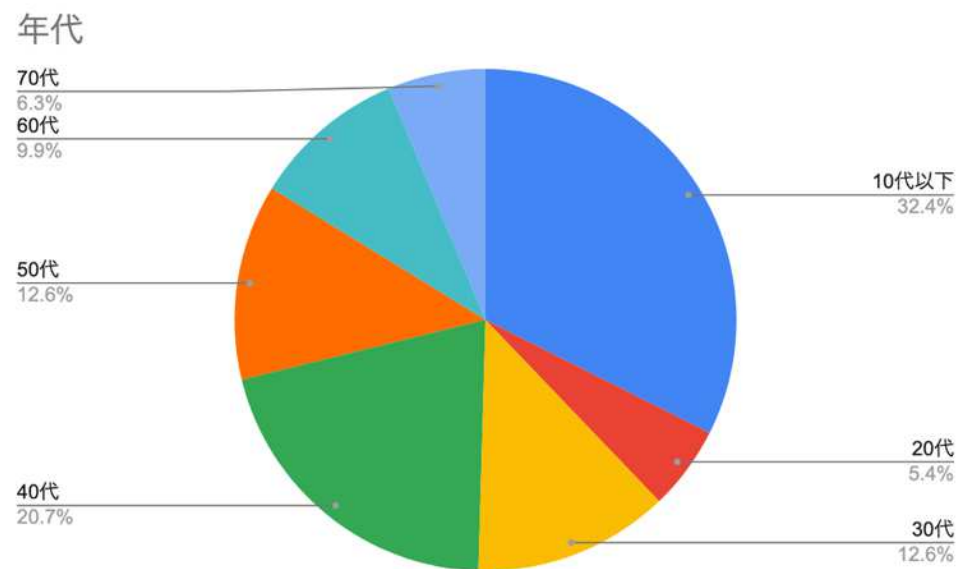
- 中央図書館と右京中央図書館では、10代以下から高齢者層（80代以上まで）まで、特定の世代に偏らない幅広い世代の利用が見られました。多様な世代が同じ空間を共有し、くつろぐことができたと言える。
- 一方で左京図書館では、10代以下（32.4%）と、保護者世代である30代・40代（合計33.3%）のファミリー層の割合が非常に高く出ました。これはボードゲーム等の子ども向けイベントがターゲット層に的確にリーチした結果と言える。
- 全館を通じ来場者の9割以上が京都市内からの来館だった。

(2) 来館頻度について

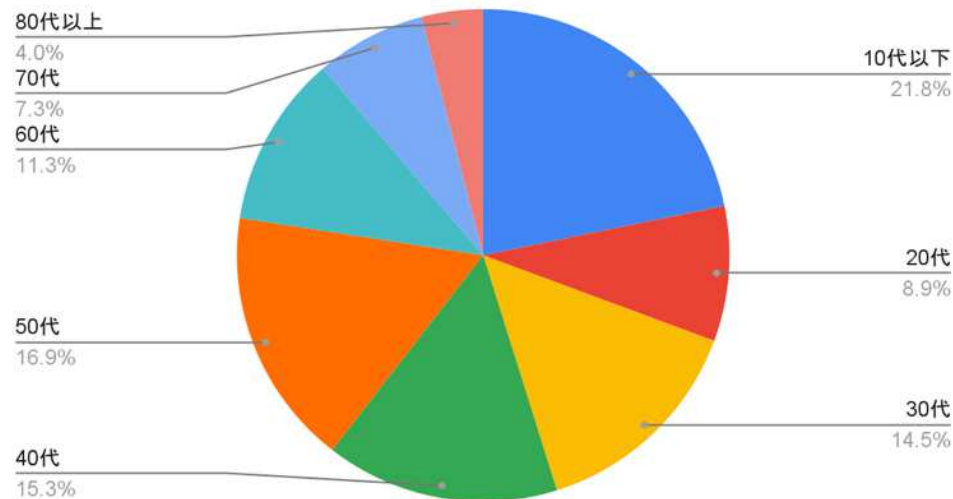
- 3館共通で、「週に1回以上」または「2週間に1回程度」と回答した高頻度利用者が7割以上（中央72%、右京中央7割以上、左京74.7%）を占めた。「いつもの場所がより快適になった」という評価が多く、既存利用者の滞在の質と満足度を大きく向上させる効果があったと言える。

Q 年代を教えてください（来場者の属性）

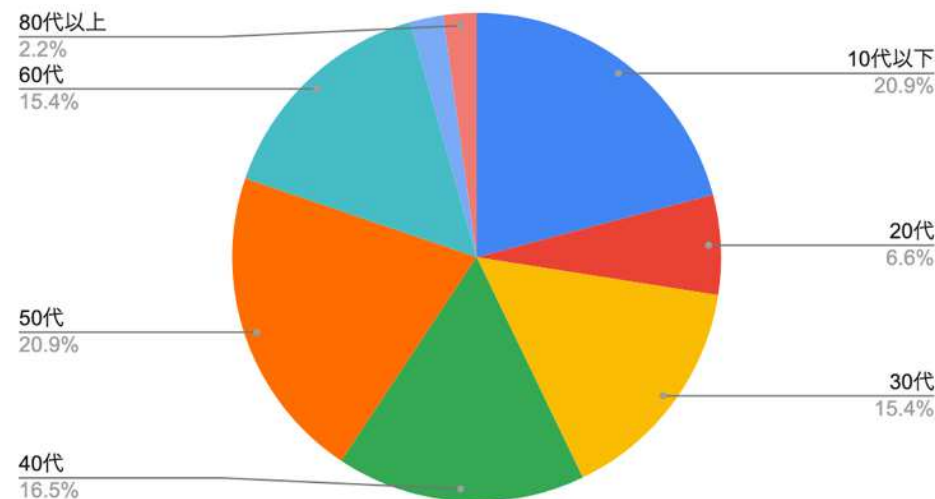
左京図書館



中央図書館



右京中央図書館



4章 空間創出効果の検証

4-3. 利用者からの空間・滞在に関する評価

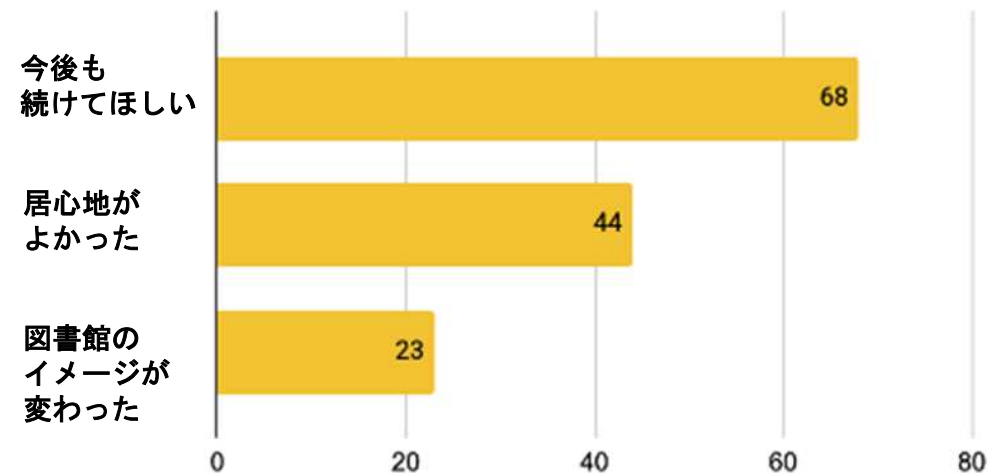
(1) 「サードプレイス」としての可能性と満足度（全館共通）
全ての図書館において「居心地が良かった」という回答が上位を占めている。POP-UP空間を体験したことで、本を借りるなど目的を持った利用から「滞在そのものを目的とする行動」への変容を促したと言える。

(2) 図書館に対する「意識変容」（中央・右京中央）
中央図書館（43%）および右京中央図書館（50%）において、「図書館のイメージが変わった」という回答が最多となった。これは、図書館が従来の「本を借りる・静かに学習する」という場所から、「新たな発見がある・滞在を楽しむ」場所へと、利用者の認識がアップデートされたことを示している。特に右京中央では半数の利用者がイメージの変化を実感しており、空間演出や企画のインパクトが高かったと言える。

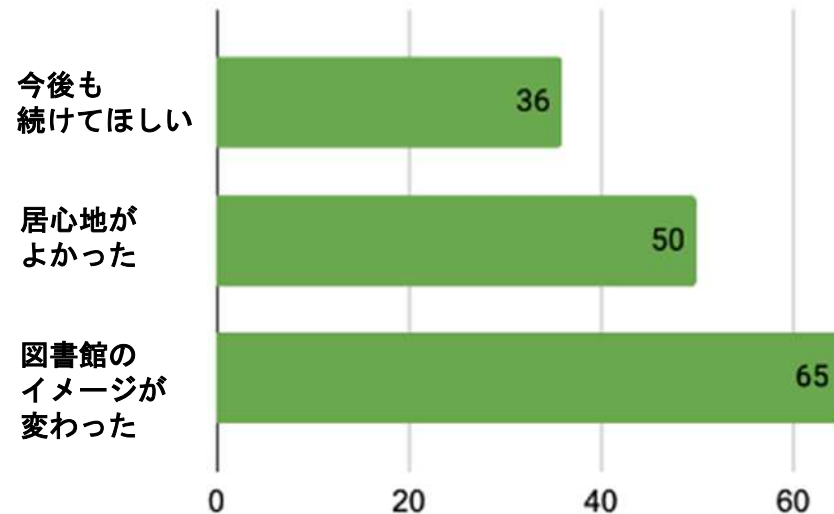
(3) 継続開催への強い期待と事業の定着性（左京）
左京図書館では、「今後も続けてほしい」という回答が約6割と圧倒的多数を占めた。中央・右京中央でも2割以上の層が継続を希望しており、一過性のイベントに終わらせず、日常的なサービスとして定着させてほしいという市民の強いニーズが可視化された。

Q POP-UPLIBRARY に滞在してみたの感想を教えてください

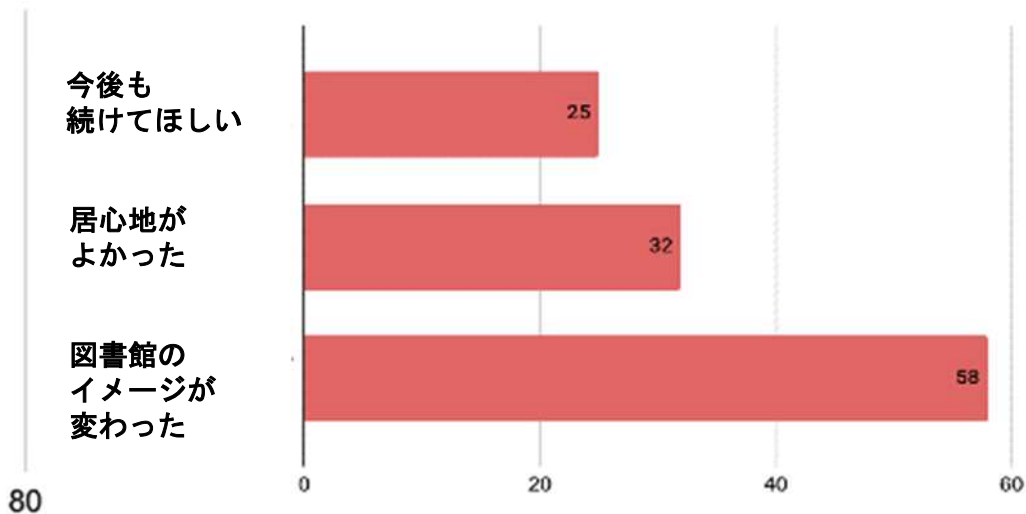
左京図書館



中央図書館



右京中央図書館



4章 空間創出効果の検証

4-4. 利用者からの具体的なニーズ

来場者アンケートの「何があったら図書館に足を運びたいか」「やってみたいこと・こうなったらいいなと思うこと」などの自由記述から、利用者がこれからの図書館に求める具体的なニーズを抽出した。

1. 学習・作業に集中できる環境（自習室・Wi-Fi・電源）への圧倒的ニーズ

学習・作業環境を求める声が各館（特に左京・中央）で非常に多く寄せられた。

- **自習室・ワークスペースの設置**：左京図書館と中央図書館とでは「自習室」に関する要望が最も多く、「勉強ができるスペースが欲しい」「生涯学習の目的をもった自習可能なコーナー」のほか、「家庭環境に依らず集中できる学習環境の提供」を求める保護者からの切実な声があった。
- **ITインフラの整備**：長時間滞在するための必須機能として、「Wi-Fi」や「電源」の他、「仕事帰りに立ち寄れる環境」の整備を求める声が各館共通で見られた。

2. 「くつろぎ」や「カフェ（飲食）」機能追加への要望

本取り組みの趣旨でもある図書館を「本を借りる場所」から「誰もが居心地が良いと感じる「サードプレイス」へと転換してほしいというニーズが強く表れている。

本取り組みでの体験を通じて、実際に図書館の変化を感じる声も多く続けてほしいという希望が多数見られた。

- **リラックスできる家具の設置**：「長時間座っていても疲れない座り心地の良い椅子」や「ゆったりできるソファ」の設置要望が全館で共通して多く寄せられた。「冬はこたつ」「ヨギボーみたいなクッションでゴロゴロしながら本が読める空間」といった、自宅のリビングのような快適性を求める声もあった。
- **カフェ・飲食機能**：中央図書館でのキッチンカー出店や、左京図書館・右京中央図書館でのコーヒー提供が好評であったことから、「コーヒーを片手に本を読める空間」「軽食可能な自習室」など、飲食と読書を併用できる環境（カフェスペース）への要望が顕著だった。

3. 子ども・子育て世代が気兼ねなく過ごせる空間・ルールづくりへの要望

- 中央図書館や右京中央図書館では、「子どもが遊べるスペースの確保」に加えて、「子どもが多少声を上げてても許容される雰囲気づくり（小さい子が声を出していい）」を求める声が寄せられた。静粛性が求められる従来の図書館では肩身の狭い思いをしている子育て世代にとって、多少の音を許容するゾーニングへのニーズは極めて高いと言える。



椅子に座ってくつろぎながら新聞を読む様子



コーヒーを飲みながらくつろぐ様子



ボードゲームパーティーの実施

4章 空間創出効果の検証

4-4. 利用者からの具体的なニーズ

来場者アンケートの「何があったら図書館に足を運びたいか」「やってみたいこと・こうなったらいいなと思うこと」などの自由記述から、利用者がこれからの図書館に求める具体的なニーズを抽出した。

4. 本を介した「交流・体験（コミュニティ）」への期待

静かに本を読むだけでなく、人との交流や体験活動を通じた「サードプレイス」としての機能を求める声（特に左京・右京中央）が目立った。

- **イベント・体験活動の継続**：左京図書館では、子ども向けの「ボードゲーム」や「ワークショップ」「演奏会」などの活動を継続開催してほしいという声が多く集まった。
- **ゆるやかな交流・対話の場**：右京中央図書館では「こたつで本を囲んでの読書会」や「好きな作家・ジャンルの交流会」の開催、感想や意見を書き込める「ゆるコミボード」のような、本を介したアウトプットやコミュニケーションができる仕組みの常設が求められている。また、空間のゾーニングによる「会話を許容するエリア（ワイワイしてもいい雰囲気）」の設置要望もあった。

5. ハード面（バリアフリー・安全性）や利便性向上の改善要求

既存の施設環境や、今回導入した家具に対する具体的な改善要望も挙げられてる。

- **バリアフリーと安全性**：左京図書館では、車椅子利用者から「出入り口の段差」や「館内の通路の狭さ（車椅子での右左折や切り返しが困難）」について具体的な詳細な指摘があり、現状の施設では気軽に利用できないという深刻な実態が示された。また、中央図書館・右京中央図書館では「椅子が低すぎる」「人との距離が近すぎて座りにくい」といった配置や家具の形状に関する指摘もあった。
- **利便性の向上**：市民のライフスタイルに合わせ、「開館時間の延長（夜間利用）」や「駅での返却場所の増設」「定休日をなくしてほしい」といったサービス拡充を求める意見も寄せられた。

6. 「屋外空間」や「グリーン（植物）」の活用へのニーズ

- **屋外空間活用**：ピロティを活用したことから「外で本を読む空間（ベンチ）」を求める声もあった。屋内にとどまらない空間の活用が求められている。
- **植物の設置**：グリーン（植物）については、「グリーンがあって癒される」と継続を望む声が多かった空間づくりや、プライベート空間をつくる効果などから図書館のスタッフからも肯定的な意見があった。



本の感想などをシェアする「ゆるコミボード」



グリーン（植物）の活用に関するニーズ



ピロティ空間の活用

4章 空間創出効果の検証

4-5. 職員との振り返りによる利用者の声・運営・管理上の課題

各館の現場職員（司書等）を対象に実施したアンケートおよびヒアリングから、本試行実施がもたらした利用者の変化と、持続的な運営に向けた管理上の課題が浮き彫りとなった。

(1) 利用者の反応と客層の変化（ポジティブな影響）

- 3館とも共通して多くの職員が、普段とは異なる客層の来館や、滞在行动のポジティブな変化を実感したと答えた。
- POP-UP期間中「これまで見かけなかった30～50代の姿があった」「親子連れだけでなく若い世代の利用が増えた」といった報告が多数あった。特に、左京図書館で実施したボードゲームなどのイベントは若年層や子どもに大好評で、常に賑わいを見せていた。
- 「居心地が良くなった」「図書館が変わろうとしていて嬉しい」といった声が利用者から直接寄せられ、滞在時間が長くなったと感じる職員が多く見られた。

(2) 安全性とゾーニングに関する課題（利用者間の摩擦）

一方で、新しい空間や賑わいに対する既存利用者からの戸惑いや、安全性に関する指摘も多数寄せられた。

- 家具の安全性とバリアフリー：三角のスツールや低い椅子等について、特に高齢の利用者から「立ち上がりにくい」「転倒しそうになった（実際に転倒した）」といった安全面を懸念する声が複数寄せられた。安定性が高い椅子や、一人がけのソファなどが求められているという声があった。
- 一人で来館して本を読むという利用が多い中で、複数人掛けのソファ等は、一人が座ると他の人が座りにくく、デッドスペースが出てしまうなどの課題があった。しかし、色々な種類の椅子が配置されていたことで、ポジティブな反応もあった。
- スペースの制約上、車椅子やベビーカーの導線を狭めてしまうという課題も確認された。
- 音の問題と利用者間の摩擦：BGMの音量や、ボードゲーム等を楽しむ子どもたちの声に対し、「静かに本を読みたい」という既存利用者（特に高齢層）から「うるさい」といった苦情が寄せられた。
- 「静寂を求める層」と「交流・賑わいを求める層」が混在することによる摩擦を防ぐため、物理的な距離を設けるか、時間を区切るなどの明確なゾーニングとルール設定が必須であることが確認された。

(3) 維持管理（メンテナンス）の課題

新しいサービス（カフェ機能・可動式家具など）を導入したことによる、環境維持のハードルが指摘されています。

- コーヒー等の提供は好評だった反面、「匂いが苦手」という声や、「館内や書籍が汚れるのではないか」という維持管理上の懸念が示された。常設化する場合は、飲食可能なエリアの限定や清掃体制の構築が必要である。
- 「清潔さを保つメンテナンスが一番手間がかかる」という意見があり、汚れにくい素材の選定や、頻繁なレイアウト変更に対応しやすい（かつ安定感のある）家具選びが求められている。

4章 空間創出効果の検証

4-5. 職員との振り返りによる利用者の声・運営・管理上の課題

(4) 業務負担の増加と運営体制の限界

本事業の継続・発展に向けて、「司書/スタッフの人員不足」が全館共通の最大の課題として挙げられた。

- 見守りと案内業務の増加：新しい空間の利用案内や、見守り、安全確保の業務が増加し、現状のスタッフ体制では、通常業務と並行して行うことの限界が指摘された。
- イベントの調整・実施に向けたノウハウとスタッフ不足：イベントを職員主導で実施する場合、企画から準備、外部との調整（承認フロー等）にかかる時間的コストが大きく、「イベント運営の経験者によるノウハウ共有が必要」との声が上がった。中央図書館などでは外部の団体や市民との協働ができればというアイディアもあったが、市民や地域団体がイベントを実施する際のルール作りなどが課題としてあげられた。

(5) 市民参加型コンテンツの運用課題（仕組み化の必要性）

- 右京中央図書館等で好評だった「みんなの本棚」や「ゆるコミボード」などの市民参加型企画について継続したいという思いはあるものの、利用者の申し込み管理や、展示内容のチェック等において、現状のシステム（図書館スタッフが直接メール等でやり取りできない等）では対応に限界があるという声が上がった。今後継続していくためには、WEBフォーム等の活用による「申し込みのシステム化」や、共通した「展示・運用ガイドライン」の策定など、スタッフの負担を減らす仕組みづくりが急務である。

(6) 情報発信（Instagram等）におけるスキル・体制の課題

本事業を周知するためのSNS（Instagram）運用について、現場職員から多くの不安と運用上の課題が挙げられた。

- 全館共通の課題として「司書によるSNS運用のスキルや知識の不足」が多数挙げられた。「ノウハウがないので一から研修してほしい」という声があり、個人のスキルに依存しないサポートが求められている。
- 通常業務に加え、「投稿コンテンツ作成にかかる時間や人手の不足」が大きな負担となっている。
- 公的機関として「個性をどこまで出していいか迷う」「炎上のリスクが高まる」といった心理的ハードルや、「利用者の画像や書影が著作権の関係で載せることができない」といった発信内容の選定に関する懸念が多数寄せられた。
- 各館でSNSのアカウントを持ち運用することは、継続的な発信や人員体制などに課題がある。現場の負担を減らすため、「本部での一括運用」など、組織的・継続的な発信体制の構築が不可欠である。

成果と課題の総括



5章 成果と課題の総括

5-1. 成果

本試行実施により、図書館が単なる「本を借りる場所」から、誰もが居心地が良いと感じる「サードプレイス」、市民の交流や自己表現の機会を創出する「フォースプレイス」、さらには地域と繋がる「まちの拠点」として機能する高いポテンシャルを持っていることが実証された。

(1) 「サードプレイス化」に向けたハード面の成果：多様なニーズに応える居心地の良い空間の創出

デザイン性の高い家具や植物を配置することで、従来の図書館のイメージを覆す快適な滞在空間を生み出すことができた。

- **滞在時間の伸長と新規層の獲得：**

アンケートでは「図書館のイメージが変わった」（中央43%、右京中央50%）、「今後も続けてほしい」（左京59.4%）という声が多数を占めた。来場者の約7割が週1回以上または2週間に1回程度利用する高頻度利用者であり、既存利用者の満足度向上に大きく貢献した一方で、これまであまり見かけなかった30～50代や女性グループの利用・滞在が増えるといったポジティブな変化も見られた。

- **「くつろぎ」と「学習・作業」の場の両立：**

ソファやグリーン（観葉植物）を配置したりラックス空間が好評を得た。利用者からは、Wi-Fiや電源を備えた自習・作業スペースへの高いニーズが確認された。図書館に、多様な目的に応じて居場所を選べる環境が求められていることが示された。

(2) 「フォースプレイス化」に向けたソフト面の成果：本を介した交流・体験・自己表現の場の実現

静かに本を読むだけでなく、イベントや企画を通じて人と人がゆるやかに関わり合う「フォースプレイス」としての機能が十分に発揮された。

- **イベントを通じた多世代交流の発生：**

左京図書館の「ボードゲームパーティー」などでは、子どもから大人までが一緒になって遊ぶ姿が見られ、ZINEのワークショップやゆるコミボード、みんなの本棚では、本を介した多世代交流が生まれた。また、コーヒー等の飲食提供も、利用者同士やスタッフとの自然な会話を生むきっかけとなった。

- **市民参加型コンテンツによる主体的関わりの創出：**

右京中央図書館の「みんなの本棚」や「ZINEワークショップ」、「ゆるコミボード」といった参加型企画が非常に好評だった。3館のアンケートで半数近くが「図書館の新しい使い方を知った」と回答しており、市民が単なる「利用者」にとどまらず、自ら表現し、本を通じて他の市民と繋がるという新しい図書館の使い方が提示された。

5章 成果と課題の総括

5-1. 成果

(3) 「まちの拠点」に向けた外部連携の成果：図書館を起点とした地域の繋がり

図書館内にとどまらず、施設の外の空間や地域資源と連携する取り組みが、新たな価値を生み出した。

- **周辺地域・事業者との連携：**

中央図書館では、屋外ピロティを活用したキッチンカーの出店や本の交換会を実施し、普段図書館を利用しない市民が立ち寄りきっかけを作った。また、来場者参加型の「中央図書館周辺オススメMAP」の作成により、図書館内で完結せず来場者を周辺地域へと送り出す導線が生まれ、施設が街へ溶け込んでいく「まちに溶解する図書館」への第一歩を可視化することができた。

(4) 新たな図書館像の共有と広報の成果

- **SNS等を活用した新たな層へのリーチ：**

Instagram等のSNSや特設サイト、デザイン性の高いチラシを通じた広報により、「普段図書館に足を運ばないが、チラシやSNSなどの広報をきっかけに来場した」という新規利用者の獲得に一定の成果を上げた。

- **現場職員のポジティブな変化：**

司書との振り返りでは、「今までの機能性を優先した殺風景な雰囲気が変わったのが良かった。実施したことで課題が明確になり、今後の打ち手が分かった」や、「利用者から『図書館が何か変わるのではないか』『動き出した』ような実感を持ってもらえた」といった前向きな意見が多数寄せられた。



5-1. 成果



(5) 京都の豊かな本との接点の可視化

「市内の80ヶ所の図書館マップ」の作成

本事業の独自の取り組みとして、市立図書館だけでなく、大学図書館、私設図書館などを含むその他図書室併設施設など多様な本にまつわる施設が市内に点在する。その多様な図書館80ヶ所を網羅したマップを作成・展示・公開した。

パネルでは、
 「小さな図書館が点在する京都だからこそ楽しめる、お気に入りの図書館を探しましょう！」
 というメッセージとともに発信することで、京都市ならではの特筆すべき強みである「本と触れ合える拠点の多さ・多様性」を示した。

これは、京都において「図書館」という役割を多様なプレイヤーが担っていることを示している。

図書館を単一の施設（点）としてではなく、まち全体に広がる環境（面）として捉え直すことで、市内全域をひとつの大きな「まちの図書館」として機能させることができる可能性がある。

◀図書館を市立図書館／大学図書館／その他図書室併設施設として分類したパネルを作成し、会場に展示したほか、Googleマイマップの機能を使い、データを作成した。



https://maps.app.goo.gl/f7YwuMeo7BSzzqGM9?g_st=ia

5章 成果と課題の総括

5-2. 課題

本試行実施により、図書館が単なる本の貸出という機能を超え、「誰もが居心地が良いと感じる居場所（サードプレイス）」や「新たな繋がりや活躍の機会を創出する交流拠点（フォースプレイス）」として機能する可能性が実証された。

一方で、これらの新しい機能を本格導入し、持続可能な運営へと移行するためには、現場の負担軽減と利用環境の整備という観点から、以下の課題を解決する必要がある。

(1) 「サードプレイス化」に向けたハード面の課題：安全性と「静と動」のゾーニング

図書館を多様な市民が長時間を快適に過ごせる「サードプレイス」とするためには、空間の質を高めるハード整備が不可欠である。

- **家具の安全性とバリアフリー化：**

デザイン性やリラックス効果を重視した家具（低い椅子や三角スツール等）について、高齢者から「立ち上がりにくい」「転倒のリスクがある」といった安全面の懸念が寄せられ。また、車椅子やベビーカーの導線確保に関する指摘もあり、全世代が安全かつ快適に滞在できるユニバーサルデザインを考慮した選定が求められる。

- **「静と動」のゾーニング：**

「コーヒーなどを飲んだりBGMを楽しみながらリラックスしたい層」「子どもたちが話したりボードゲームができる空間を望む層」と、「静寂な環境で読書・学習に集中したい層」が混在したことで、音や過ごし方を巡る摩擦が生じた部分があった。サードプレイスとしての機能を果たすためには、物理的な距離（間仕切りや書架・植物の配置）を設けるか、利用時間を区切るなど、音の許容度に応じた明確な「ゾーニング（棲み分け）」の設計が必要である。

(2) 「フォースプレイス化」に向けたソフト面の課題：外部連携と運営の仕組み化

図書館を交流拠点とし、「市民が主体的に参加し、交流する場（フォースプレイス）」へと昇華させるためには、イベントや市民参加型コンテンツの継続が重要ですが、現状の運営体制には限界がある。

- **イベント企画・運営のルール化：**

司書からも市民主体のイベント増加に期待が寄せられている半面、多様な持ち込み企画をすべて現場で受け入れると、調整や承認フローに多大な労力がかかるという心配があった。現場の負担を抑えつつ市民や外部パートナーと協働するためには、客観的に実施可否を判断できる「選定基準」やルールの策定が必要である。

- **市民参加型コンテンツのシステム化：**

右京中央図書館の「みんなの本棚」など、市民の自己表現を促すコンテンツを持続させるにあたり、直接メール等でやり取りできないなどの現状の環境面での課題がある。今後継続する場合は、そういったツールの部分の見直しなど含めて、仕組みづくりが必要である。

5章 成果と課題の総括

5-2. 課題

(3) 持続可能な運営と維持管理の課題：人手不足とメンテナンス負荷

サードプレイス・フォースプレイスとしての新たなサービス展開は、現場の司書・スタッフにとって「通常業務への上乗せ」となってしまったため、人員体制の検討が必要。

- **司書・スタッフの人員不足と見守り負担：**

全館共通の最大の課題として「人員不足」が挙げられた。新しい空間での案内や、子どもが遊ぶ際の安全確保・見守り業務などが増加しており、図書館スタッフだけに依存しない運営体制の構築が不可欠である。

- **維持管理（メンテナンス）の手間：**

植物の世話や、飲食提供に伴う清掃など「清潔さを保つメンテナンスが一番手間がかかる」という声が上がった。一方、植物については、隔週1回程度の水やり程度でメンテナンスが楽なものであれば、スタッフが管理することも考えられるという前向きな声もあった。植物の設置のメリットと手間を考慮した配置が必要である。

今後の空間づくりにおいては、レイアウト変更に対応しやすく安定感のある可動式家具の導入や、汚れに強い素材の選定など、メンテナンス性に配慮したハード整備が求められる。

(4) 新たなターゲット層へのリーチの課題：SNS運用のスキル不足と属人化

サードプレイス化の取り組みを、「普段図書館にこない層」に届けるためにはSNS等を用いた継続的な広報戦略が不可欠だが、現場での運用には大きな壁が存在している。

- **運用スキルとリスク管理の不安：**

多くの職員から「SNS運用のスキルや知識の不足」「炎上などリスク管理への不安」が強く示された。公的機関として「どこまで個性を出して良いか分からない」といった心理的ハードルが高い。

- **サポート体制の構築：**

投稿作成にかかる時間や人手の不足も深刻であり、各館の現場担当者が掛け持ちで業務を行うのではなく、マニュアルやテンプレートの導入による作業の効率化、あるいは「本部主導による一括管理」といった組織的なサポート体制の構築が望まれる。

居心地の良い空間創出に向けた提言



6章 居心地の良い空間創出に向けた提言

6-1. ハード（空間・設備）への提言：

多様な利用を受け止める居心地のいい空間づくり

サードプレイスとしての快適性と、公共施設としての安全性・利便性を両立させる空間づくりが求められる。

①空間の工夫と多様性の創出

- **多様な居場所づくりによる利用者層の拡大：**
単一種類の座席配置にとどまらず、多様な過ごし方に合わせた家具や空間（居場所）を用意することで、結果として幅広い層の利用者を自然に生み出す。
- **限られた空間を活かす視線のコントロール：**
スペースが手狭な場合でも、間に植栽などを配置して利用者同士の視線を遮る（心理的なパーソナルスペースを確保する）などの工夫により、居心地の良さを保ちながら実質的な座席数を確保する。

②「読む・学ぶ」と「交流・くつろぎ」が共存するゾーニング

- **物理的・時間的な棲み分け：**
音楽や会話が許容される「アクティブエリア」と、静寂を保つ「クワイエットエリア」を、書架やパーテーション等を用いて物理的に距離を離して配置する必要があります。物理的な分離が難しい場合は、「時間を決めてBGMを流す」といった時間的なゾーニングの導入が有効である。
- **学習・作業スペースの拡充：**
全館を通じて「自習室」や「Wi-Fi・電源」へのニーズが圧倒的に高かったことから、長時間集中できるワークスペースの整備が求められている。

③誰もが安心して「長居」できる、ユニバーサルデザイン家具の選定

- **安定性と座り心地の確保：**
座面が三角の椅子や低い椅子で、高齢者が立ち上がりにくさを感じたり、実際に転倒する事案が発生した。今後は、背もたれや肘掛けがあり、適度な高さで安定感がありつつ、デザイン性や快適性を確保できる家具の選定が必要である。

④まちの変化に合わせて柔軟に形を変える「アップデート型インフラ」

- **可動式家具と固定式家具の併用：**
レイアウト変更に対応できるよう、重すぎず軽すぎない「適度な重量の可動式1人掛け家具」をメインに据えることが有効である。
- **防汚性と清掃のしやすさ：**
飲食（コーヒー等）を伴う空間づくりにおいては、館内や書籍の汚れへの懸念が強く示されている。汚れに強い床材や家具の素材を選定し、日常のメンテナンスの手間を減らす工夫が求められる。

6章 居心地の良い空間創出に向けた提言

6-2. ソフト（運営・サービス）への提言：

「地域コミュニティの核となり、まちの拠点」となる図書館にとるための仕組み化と外部連携

現場（司書・スタッフ）の人員不足を補い、新しい図書館の機能を無理なく持続させるための「仕組み化」と官民の垣根を越えて市内に点在する豊かな「本との接点」をつなぎ、ひとつの大きな「まちの図書館」として機能させるための「外部連携」が必要である。

①全体構想を見据えたネットワーク化

- 複数館の連携による面的な価値提供：

単一の図書館のみで機能やサービスを完結させるのではなく、今後のグランドデザイン（全体構想）を見据え、複数の図書館がそれぞれの特色を活かして連携・補完し合うネットワークの構築が重要である。

②図書館を「まちの拠点」へ市民参加の仕組みと外部連携のシステム化

- イベント選定基準とガイドラインの策定：

市民からの持ち込み企画や外部団体との協働を円滑に進めるため、客観的に実施可否を判断できる「選定基準」や「利用ルール」を早期に策定し、現場の調整負担を軽減する必要がある。

- 参加型コンテンツを受け入れるための仕組みづくり：

現状、図書館スタッフがメール等で利用者と直接やり取りすることが難しいため、ツールの見直しなどを行い、WEBフォーム等を活用して申し込みや利用者管理のプロセスをシステム化する必要がある。

③ 図書館の魅力を届ける本部一括運用による持続可能な情報発信

- 広報における本部主導の一括運用体制：

各館の担当者が通常業務と掛け持ちで運用するのには限界がある。現場は「写真やイベント等情報提供」に徹し、実際の投稿作業やリスク管理は「本部（あるいは専属スタッフ）が一括で行う」体制の構築が必要である。

④「禁止」から「共存」へ。多様な過ごし方を許容する「新しい図書館ルール」づくり

- 飲食や会話に関するルールの明文化：

飲食や会話にまつわるルールを明文化し、利用者に分かりやすく提示（サイン表示等）することで、利用者間のトラブルを未然に防ぐことが考えられる。なお、ルールを作成する際も、市民を巻き込みながら実施できるとが望ましい。

⑤ 官民の垣根を越えた「京都・図書館ネットワーク」の構築と「&BOOKS」モデルの展開

- 「面」で展開する図書館ネットワークと&BOOKS（本と〇〇）の展開の可能性：

京都市には市営・民間・大学など、豊かな「本との接点」が市内に点在するという独自の魅力とポテンシャルがある。今後は、各館が単独で運営・広報を行うのではなく、官民が連携したイベントや情報発信を行うことで、市内全域をひとつの大きな「まちの図書館」として機能させることができる。このネットワーク化こそが、「まちに溶解する図書館」を体現するベースとなりうる。その際、各図書館の特徴などを踏まえ、&BOOKS（本と〇〇）のテーマを設定し、市民と連携したイベントや選書を実施する仕組みづくりやテーマの巡回などを行うことで、京都市全体の図書館利用の活性化と機運醸成につながる可能性がある。

6-3. まとめ

「本を借りる場所」から、「まちの居場所」へ。
「知の拠点」から「まちの拠点」へと進化する、京都市の図書館の未来。

今回の「POP-UP LIBRARY」は、単なる短期的なイベントではなく、京都市の図書館の未来像を市民とともに共有し、検討するための「社会実験」であった。各館での来場者アンケート結果が示す通り、市民は現在の図書館に対して、静かに本を読む機能だけでなく、**集中できる学習環境、くつろげる居場所（サードプレイス）、そして本を介して人と人がつながり自己表現できる交流拠点（フォースプレイス）**としての役割を強く求めている。

今回の取り組みを通じて、ある利用者の方からは、**「目が悪くなって本が読めなくなり、図書館から足が遠のいていたが、今回のような空間があれば、本を読まなくても自分の居場所があると感じて足を運びたくなる」という声**が寄せられた。公民館のように事前予約が必要なく、公園のように気温や天候に左右されない、誰でも無料でふらっと立ち寄れて、屋根のある快適な室内空間で思い思いの時間を過ごせる——そのような**「誰もがいつでもいられる場所」**として機能できる公共施設は、実は図書館をおいて他にない。だからこそ、従来の「本を借りる・読む」という機能を超えた、多機能化（サードプレイス化・フォースプレイス化）が強く求められていることがわかった。

本実証実験を通じて、イベントや新たな空間づくりをきっかけに幅広い層が足を運び、滞在時間を延ばしたことは、京都市の図書館がまちづくりの拠点となる高いポテンシャルを持っていることがわかった。さらに、中央図書館のピロティでのキッチンカー出店や周辺おすすめMAPづくりなど、**図書館の機能が建物の内側に留まらず、屋外や周辺地域へとシームレスに染み出していく「まちへの溶解」の萌芽も見られた**。図書館は、「本を読む貸し出す場所」を超え、市民の日常や地域の営みの中に溶け込む「まちの拠点」へと進化する可能性が十分にある。

一方で、現場職員との振り返りからは、この新たな価値を定着させるための課題も浮き彫りになった。安全性や「静と動」の共存に配慮した空間設計（ハード面の整備）、そして、現場の業務負担を軽減しつつ外部連携や情報発信を持続可能にするサポート体制（ソフト面の仕組み化）など、単一の図書館のみで機能やサービスを完結させるのではなく、今後のグランドデザインを見据え、複数の図書館がそれぞれの特色を活かして連携・補完し合うネットワークの構築が重要である。

各図書館の特色や強みをもとに、まちの文化、地域のコミュニティ活動などと連携していくことができれば、図書館の存在は単なる「知の拠点」から「まちの拠点」へとシフトし、市民にとっての意味合いも大きく変化していく可能性を持っている。そうした展開によって、これからの図書館は、京都市のまちづくりにおける新たな推進力となり得る。

本事業で得られた「市民の熱量やニーズ」と「現場のリアルな課題」というエビデンスをもとに、今後の施設の改修や新たな運営方針へと還元していくこと。そして最終的には、図書館という存在そのものが京都市のまち全体に溶解し、どこにいても本と学び、人との出会いがある日常をつくり出していくことが、これからの京都市の図書館に求められている。